

令和2年度 【芦屋市】認知症地域支援推進員活動報告

【芦屋市】の認知症地域支援推進員について

1 認知症地域支援推進員：4名

2 認知症地域支援推進員の役割

(1) 国の定める「認知症地域支援推進員研修」の受講

(2) キャラバン・メイト研修の受講

(3) 地域包括支援センター職員の認知症ケアに関する専門性の向上

(4) 認知症の人を支援する関係者との連携

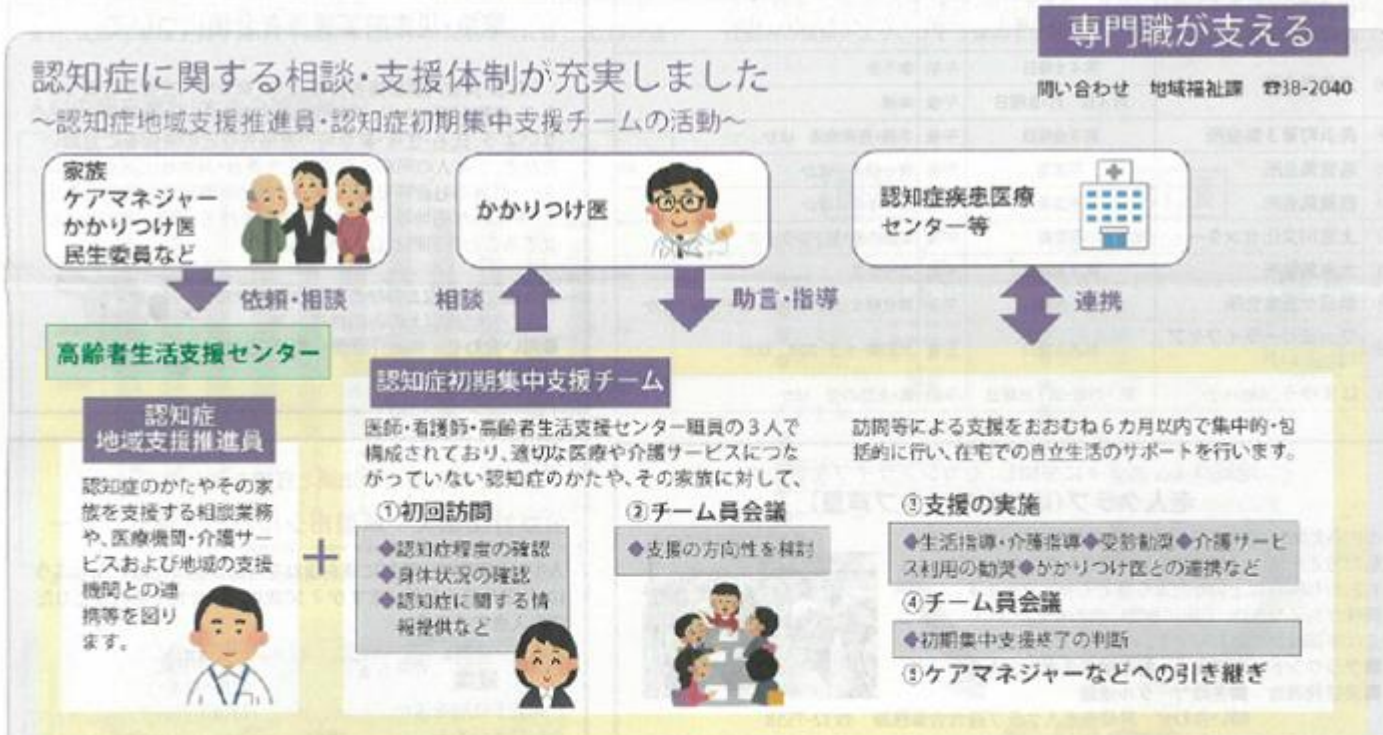
(5) 認知症ネットワークの構築

(6) 地域の実情に応じた認知症の人やその家族を支える事業の実施

(7) 若年性認知症の人の相談、支援

報告者氏名：芦屋市福祉部高齢介護課 西田 祥平

【芦屋市】認知症施策①



「認知症の人を支える家族の会あじさいの会」

認知症のかたを支える家族がつどい、経験や情報を分かち合いながら、お互い励まし、助け合ってよりよい介護をめざす「家族の会」です。

■日時 毎月第3月曜日、午後1時30分～3時30分(祝日の場合は第2月曜日)

■問い合わせ あじさいの会 ☎32-7525(社会福祉協議会内)

認知症サポーター養成講座を開催しませんか？

自治会、学校、商店街、職場、サークル、ボランティアなどの集まりに講師(キャラバンメイト)が出向き、認知症の正しい理解、認知症の人の行動や心理、支援や対応する際の心配りなどを学びます。約90分程度。

■費用 無料(会場は主催側でご用意ください)

■申し込み&問い合わせ 社会福祉協議会 ☎32-7525

**協力事業者による
地域見まもりネットワーク事業**

さまざまな事業者の皆さんにご協力いただき、日常の業務で支援が必要な高齢のかたなどを地域で見守り、安心して暮らせるまちづくりを目指しています。

7月末現在、136事業者の登録をいただけており、実際に専門機関による支援につながっています。ご協力をいただける場合は、下記へご連絡をお願いします。

問い合わせ
社会福祉協議会 ☎32-7530/高齢介護課 ☎38-2044

【芦屋市】認知症施策②

普及・啓発

- 講習会，広報紙等で啓発
- 認知症ケアネット作成
- 保健・医療・福祉連携
- トライやるウィーク受入
- 認知症サポーター養成

ネットワークの構築

- 認知症高齢者見守りSOSネットワークの活用
- 認知症行方不明高齢者搜索模擬訓練の実施
- 地域見守りネットワーク

早期発見 相談体制の充実

- 初期集中支援チーム
- 認知症地域支援推進委員
- 認知症相談センター
- 医療福祉連携
- 保健センターにて相談

支援の充実

- 地域密着型サービスの整備
- 認知症等高齢者GPS機器貸与事業，認知症高齢者見守り支援事業の利用促進
- 消費者トラブル早期発見
- 若年性認知症のニーズ把握と支援，仕組みの検討

居場所づくり

- 利用しやすい，気兼ねなく集まれる居場所づくり
- さわやか教室等で認知症の予防に資する取り組み

【芦屋市】 R2年度認知症地域支援推進員具体的活動報告

テーマ番号<⑥>当事者の会を実施

【背景】

芦屋市には3つの認知症カフェがあるが、多様なニーズに応え、当事者が選択して通いの場を見つけるには少ない状況である。認知症当事者の声を出し合い、ニーズに合ったインフォーマルサービスの構築に活かす必要があると考え開催を企画した。

【内容】

2回開催！

■実施事項

「認知症をともに考えるあしやの会」

■参加・企画者

認知症地域支援推進員，地域包括支援センター，基幹的業務担当

■工夫

周知方法，テーマ，進行について議論を重ねた



認知症をともに考えるあしやの会

【周知方法】

地域包括支援センターでかかわりのある当事者に声掛けを行うだけでなく、市内診断可能な病院にも案内。当事者だけでなく医師への周知にもなった。

【テーマ】

初回はフリートークで開催したが、テーマを決めた方が活発になるとの意見があったため、2回目はテーマを決めて開催することで会話が活発になった。

【今後の課題】

テーマを決めることで活発に会話がおこなわれたものの、ファシリテーション能力が必要であると振り返った。



認知症をともに考えるあしやの会【成果】

■若年性認知症支援の課題発見

出席者の中に若年性認知症の方がおられ、特有の問題・課題があることを実感した。

■個別ケースを通じて検討

同時期に市内で対応している若年性認知症の方の支援を推進委員も入って検討。そこから出る課題を抽出し多機関と支援を行える体制構築を考えることに。

■若年性認知症支援ネットワークを考える

兵庫県，障がい福祉課と関連機関，社会福祉協議会に声掛けを行い第1回を開催。どんな課題があるのか？何が出来るのかを考えた。

最後に・・・（今後の取組みに対する認知症地域支援推進員としての思い）

当事者の思いを引きつづき発信いただき，そこで得たニーズを形にした通いの場の形成，若年性認知症の方を支援できる体制づくり，認知症の啓発に努める。

また，令和3年度はボランティアに協力いただく体制構築を検討している。